

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4470201056
法人名	社会福祉法人 一燈園
事業所名	グループホーム新別府一燈園
訪問調査日	平成19年11月 9日
評価確定日	平成20年 1月10日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4470201056		
法人名	社会福祉法人 一燈園		
事業所名	グループホーム新別府一燈園		
所在地	別府市大字鶴見字新別府3051番地3 (電話)0977-23-1818		
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成19年11月 9日	評価確定日	平成20年 1月10日

## 【情報提供票より】(平成19年10月24日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成15年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 16人, 非常勤 0人, 常勤換算	16人

## (2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3階建ての	2階～	3階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (120,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	550 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1,200 円			

## (4)利用者の概要(10月24日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	5名	要介護2	4名		
要介護3	6名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	72歳	最高	94歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	あべ消化器・内科クリニック 厚生連鶴見病院 児玉病院 南立石イトセ歯科医院
---------	---------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1. 利用者のその人らしい生活が活かされている。居室の中に昔の思い出があり夢がある。音楽療法であったり、生花であったり、いきいきとした生活の支援している。
2. 事業所の研修に対する取り組みが職員の介護に対する向上心を育てている。
3. 朝の散歩を継続していて日課になっている。
4. 小旅行としてバスでのお出かけ計画がある。
5. 地域の小学生の月1～2回のボランティアとしての交流があり、楽しみの一つになっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善項目の施錠については、利用者の行動を把握し見守りや職員の声かけで、再度、鍵をかけないケアに取り組むことが課題である。</p>
	<p>① 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>サービス評価ガイドブックにより全職員で検討し、意見交換しながら改善シートを作成し、介護の向上に取り組み、評価に対して職員の話合いはできている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回行われ、地域包括支援センターの職員も参加している。外部評価の実施状況を報告し意見質問を受けている。会議の開催により地域との連携ができ、災害訓練の協力体制が取れるようになった。市には運営推進会議の内容や事業の報告はしているが市職員の参加はないので、独自の働きかけが望まれる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議による家族の意見は大切に、苦情受付、意見や不満は職員間で検討し、福祉サービス向上委員会にアドバイスをもらう等サービスの質の向上に努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域住民として、自治会へ入会し、防災訓練の協力が得られているなどの地域行事への参加や敬老会、小学校の運動会、施設行事への招待などを通して交流している。月1～2回の小学生による訪問も楽しみごとの行事である。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念を活かしながら、日々の生活の中に取り入れ、地域との交流の意義を考え、共に支えていく関係づくりをしている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員とで理念の意義が毎日の介護の中で活かされるよう事務所内に掲示し、日々実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し、地域の行事に参加している。毎日の散歩時には気軽に声かけができています。事業所の行事では地域住民や小学生と交流をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の課題については随時見直し改善に取り組んでいる。外部評価の意義については、地域密着型サービス評価ガイドブックにより評価内容を検討しながら、研修に取り組んでいるが全職員に浸透していない。	○	地域密着型サービス評価ガイドブックに沿った研修を開催し、評価の意義を検討し、全職員が評価のねらいや活用方法を理解することを期待したい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回実施し、自治会長、地域包括支援センター職員、家族代表の参加がある。事業所の報告、意義について話し合い意見や要望が聴かれ地域との連携が密になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市の職員の参加を、別府市グループホーム連絡協議会を通してお願いしたが参加が得られていない。会議の内容など報告し連携を取るよう務めている。	○	市職員の参加については、参加がないため事業所独自の働きかけを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回発行の広報誌により施設の取り組みや様子を報告している。金銭出納帳のコピーを同封し送付している。担当職員による家族への電話連絡、面会時の積極的な声かけをしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、苦情の相談の受付は行われている。法人の相談窓口意見苦情を提出し、第三者委員にも報告し、参考にしている。運営推進会議での意見は大切に運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については、家族の不安がないように、担当職員を二人体制にしたり、認知症があることを十分に配慮する等管理者のフォローが行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の新人研修や、ステップアップ研修など計画的に取り組んでいる。研修内容を介護に活かして、職員の取り組みに向上心が見られる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市グループホーム連絡協議会に加入し、定期的な会合や研修会に参加し、交流を図ると共に介護の質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居利用前に本人と家族に施設見学をして頂き、馴染みの関係づくりをしている。事業所のデイサービスを利用している方にはホームで時間を過ごしていただき、不安解消に努める。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のできる事への支援をしながら、共に支えていく関係づくりをしている。役割分担ができる事への喜び、感謝の気持ちなどお互いに助け合い支えあう関係ができています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや、希望を日常生活の中で把握し、家族と話し合いケアプランに取り入れている。意思疎通が困難な方は、生活歴や日常の気づき、家族の意見など参考にその人らしく暮らせるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らすために、本人の希望や家族の意見、意向等をアセスメントし職員間で意見を出し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回、状態の変化や問題が発生したときは随時の変更はしている。日常生活での変化や気づきはその都度、職員間で話し合い計画の変更をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の意向で通院、買い物や自宅帰省など支援をし、家族の施設宿泊、外食や個別対応ができるようにも支援している。		
。					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時はかかりつけ医をグループホームの協力医院に変更していただいたが強制ではなく、家族の希望は大切にしている。主治医の往診を受けてる人もいて、家族と同伴での受診も可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期についての方針は明らかにしてないが、段階に応じて家族と話し合い、かかりつけ医の助言を参考に職員の同意、協力体制の下に取り組むたいと考えている。	○	ターミナルケアについて本人、家族、かかりつけ医等関係者と協議、検討をし対応方針の共有を図っていくことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人としてのマナーの研修は行っており、日常生活における言葉かけは十分配慮している。また、プライバシーの保護についても配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の業務の流れはあるが、個々の生活のリズムを大切にし、体調の変化による対応を心がけている。また夜間の消灯時間なども柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜を取り入れた献立、管理栄養士により栄養バランスが管理されている。利用者も準備、片付けに参加している。職員も同じテーブルで同じ食事をし楽しい雰囲気が感じられる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉の設備があり、好きな時間に入浴ができる。可能な場合は、夜間の入浴の対応もしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味活動は盛んであり、音楽療法を取り入れてコーラス部を結成し、行事等で活動している。家事の支援、生花の指導、野菜づくりなどそれぞれの役割に応じて支援ができています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	朝の散歩は日課とし、買い物やバスによるドライブなどは、恒例行事となり、外食、演劇鑑賞などは希望者に外出支援を行っている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	交通量が多いので安全確保のため施設の出入り口を施錠しているが、随時の対応はしている。居室など個人的な部分の解放はしている。	○	今後は鍵をかけることが常態化しないように見守りによる介護への工夫が期待される。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時のマニュアルを作成している。利用者参加による避難訓練が行われ、地域住民との協力もできている。また、運営推進会議での災害対策についての話し合いの中で、地域の避難場所にという意見がある。しかし、非常用の食料や備品の準備はしていない。	○	火災や地震、水害等の災害に備えて食料や飲料、トイレ、寒さをしのげるような物品等を準備することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や、水分のチェック表があり、水分については、午前、午後と見直しをしている。栄養管理士による指導が行われ、嗜好調査結果、嚥下困難や咀嚼力に応じてメニューも考慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下などには季節の花や、行事の写真などがあり居心地よく過ごせるよう配慮している。掘りコタツが設置がされ、家庭的な雰囲気があり、落ち着ける場所づくりができています。調理も利用者が参加して行われ生活感が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の個性を十分に配慮し、家具、仏壇、ソファー、生花、等身大のスターの写真と懐かしさや思い出を演出している。本人と家族が一緒になって居心地よく過ごせるような工夫をしている。		



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したようになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○を付けます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム新別府一燈園
(ユニット名)	2階 なごみ
所在地 (県・市町村名)	別府市大字鶴見字新別府3051番地3
記入者名 (管理者)	小野 利津子
記入日	平成 19 年 10 月 14 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(   部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

  
↓

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	理念をさらに徹底し、生かしていくために、ミーティングや申し送り時に確認しあっていく。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	施設のアンケートやホーム便り(新聞)を生かし、理念を伝えていく。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	夏にそうめん流しを行い、地域の方へもお誘いを行いました。参加が少なかったため、今後もこのような機会を作り、もっと地域の方が沢山参加していただけるように取り組みたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の 暮らしに役立つことがないか話し合い、 取り組んでいる	老人会(さわやか会)に入居者のコースとして参加させてい ただき、グループホームでの活動内容や成果を伝え、また、 認知症のことを少しでも知っていただくよう努めている。	○	今後はできたら地域住民の方々と認知症についての勉強 会などを開催し、理解を深めていただくような取組ができたら と考えています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価 を活かして具体的な改善に取り組んでい る	自己評価を職員全員で取り組みたいと考えていたが、時間 の関係で今回は出来なかった。外部評価の結果については 全職員で確認し、改善すべき事は改善に向けて検討し、実 施している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について 報告や話し合いを行い、そこでの意見を サービス向上に活かしている	運営推進会議の中で外部評価の実施状況や結果の報告を 行い、参加者よりご意見や質問等をいただきながら、さらに 発展、向上できるように取り組んでいる。徐々に地域との連携 も取れるようになり、地域の方々とのふれあいも持てるよう になってきている。	○	自治会長だけでなく、他の自治会の役員の方も運営推進 会議に参加してみたいとの申し出があり、次回(11月)より 参加していただけるようになった。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町 村とともにサービスの質の向上に組み 組んでいる	当グループホーム単独ではないが、別府市内のグループ ホーム連絡協議会などを通じて、市町村との連携を取り、 サービスの向上に向けて取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持 ち、個々の必要性を関係者と話し合い、 必要な人にはそれらを活用できるよう支 援している	現在、1名の入居者の方が成年後見制度を利用することで、 手続き中であり、その担当者等との連携を取る中で、後見制 度を学ぶ機会があるが、まだ十分に理解されていない。	○	今後はさらに必要性が高くなると思うので、職員で勉強会 などを行い、適切なアドバイスや支援ができるよう取り組 んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅 や事業所内で虐待が見過ごされることが ないよう注意を払い、防止に努めている	今のところは虐待の事例がないため、十分な研修や勉強会 などが実施されているとは言えない。	○	高齢者虐待防止関連法についての外部研修への参加や 職場内の勉強会等を実施することで、理解や虐待防止に 努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には十分に時間を掛け、重要事項の説明を行い、契約書等も交付して締結しているが、アンケート調査では「随分前のことで、説明の内容を忘れた」との意見もあった。</p>	<p>○</p> <p>今後は、機会ある毎に利用者や家族が安心できるよう、利用者・家族からの疑問や不安、苦情等を随時お聴きするように努め、理解、納得を図っていく。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々、利用者に関わり、会話することで、意見や不満、希望等その思いを察するよう努力しながら、利用者の不安等が少なくなるよう取り組んでいる。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月1回、担当職員よりミニ便り(新聞)等と一緒にお便りにて現状報告を行っている。健康状態については、必要であれば、その都度電話などで連絡・報告し、ご意見等をいただいている。また、面会時にもケアの状況や日常生活についてお伝えし、相談等を行っている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付として「ご意見承り箱」を設置している。また、家族会等で家族からの意見や不満・希望等をお聴きするようにしている。苦情等があれば、職員で検討すると共に、法人内の福祉サービス向上委員会に報告書を提出し、第三者委員からもご意見やアドバイスをいただき、サービス向上に取り組んでいる。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>カンファレンスの時やその他、職員が集合した時には自由に意見等が出るよう常日頃から職員には声かけを行い、コミュニケーションを取っている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員の協力があり、柔軟な対応が行っている職場であると思っている。行事や個別ケア等で話し合いの下、人員の確保や勤務の調整を行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>説明をして解っていただける方は良いが、解っていただけない入居者への対応が難しく、不安や不穏への対応に一人ひとり心がけている。職員の異動等については、認知症施設として、出来るだけ最小限にと考えているが、異動しないわけには行かず、家族より職員の異動に対する不満の声もいただいたことがある。</p>	<p>○</p> <p>法人では介護施設や事業所を多数運営しており、同じ施設に長期勤務が出来ず、定期的に異動するシステムとなっているため、利用者や家族にはこの旨をしっかりと納得していただけるよう契約時に十分に説明し、職員同士の引き継ぎも職員全員でフォローしながらしっかり行っていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内での新人研修・ステップアップ研修・フォローアップ研修など段階に応じた研修には必ず参加させ、施設内や別府市グループホーム連絡協議会等での研修会にも積極的に参加を推進している。また、外部研修等に参加した場合は、カンファレンスなどを利用し、普及教育に努めている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大分県グループホーム協議会や別紙グループホーム連絡協議会の実施する研修等に積極的に参加し、研修会を通じて意見交換を行ったり、施設見学等もあり、他施設の良いところはサービス向上につながるよう取り入れている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日常より、職員のストレスや悩みを聴くように声かけなどにも努めているが、勤務体制も変則であり、じっくりと会話するような時間も取れず、ストレスの軽減に繋がる環境とは言えない。しかし、法人としてのレクリエーション大会や慰労会などの企画には参加し、出来るだけストレス発散につながるよう取り組んでいる。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>半年に1回、人事考課として、自己評価・個人目標の設定及び評価等を行うシステムになっており、各自が目標を持って働けるよう取り組んでいる。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>いつでも入居者の側に寄り添うようなケアに心がけ、コミュニケーションを図りながら、常日頃からの生活状況の把握や本人の訴え、希望等を受け止める環境作りに努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面会時はもちろんのこと、家族会や行事等にも積極的に家族の参加を働きかけ、不安や困っていること、希望等をお聴きする機会を持つよう心がけている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	○	<p>入居希望の方が同施設内1階のデイサービスを利用して いる場合は、デイサービス利用時に声かけしたり、グループホームへお連れして、グループホームの雰囲気を体験して いただいたりして、徐々に馴染めるよう取り組んでいる。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>		
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>いろいろな事情で他の施設等に移られた方を利用者と一緒に逢いに出かけたり、町中で家族の方にお会いしたときは声を掛け、関係を大事にするよう心がけている。</p>	
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>			
<p>1. 一人ひとりの把握</p>			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日頃から会話やスキンシップによるコミュニケーションを取る中で訴えや希望、思いなどを把握している。困難な場合は、家族からの情報や以前の暮らしぶり、態度や表情から、把握するよう努めている。</p>	
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人や家族には日頃の関わりの中で、思いや意見をお聴きし、職員全員で意見交換をしたり、モニタリング・カンファレンス等を行っている。</p>	
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>自宅での長年の生活歴や生活リズム、健康状態、趣味などを本人や家族に出来るだけ詳しく、具体的にお伺いし、また、グループホーム内での行動や、生活状況を観察しながら、総合的に把握するよう努めている。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者がより自分らしく暮らせるよう、本人や家族の要望や意見をお聴きし、カンファレンス時に意見交換を行い、介護計画に活かしている。</p>	
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは定期的実施している。また、状態の変化等で計画の見直しが必要な場合は、その都度、本人・家族や関係者と相談のうえ、現状に即した計画を作成している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	○	ボランティアの人数もまだ少ないので、今後は個別のニーズに対応出来るよう、地域の方々のボランティアの募集を積極的に展開していきたい。
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	○	今後も地域の方々を含め、高齢者の生活支援に関する勉強会など地域に根ざした活動を協力して行っていきたい。
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>運営者や職員で、出来るだけ早く、ターミナルケアについて協議・検討し、グループホームとしての基本的な考え、方針等を明確に決定する必要がある。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>まず、グループホームとして、重度化した時や終末期の対応をする場合、何が出来て、何が出来ないのかをしっかりと検討して、当施設としての基本的な方針を決定しなければならない。その上で可能な限りの支援を行っていくよう取り組みたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人として、高齢者に対する言葉遣いや態度など、マナー教育の徹底を行っており、日頃から利用者に対しては尊厳した言葉かけや態度で接するよう取り組んでいる。また、個人記録の取扱いにも十分に配慮し、プライバシーの保護に努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日頃から利用者との関わりを積極的に行い、コミュニケーションを取ってその方に応じた対応に心がけ、本人の訴えや希望を受け止めるよう努力している。一人ひとりの思いを大切にし、出来るだけ本人が納得できるよう支援を行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な毎日の業務があるが、職員や施設の都合を優先するような事の無いよう、出来るだけ、個々人の生活リズム・ペースを大切に、希望に沿った生活支援を職員全員で取り組んでいる。	○ いつまでも、「その人らしく」を支援し、明るく楽しく、元気で過ごしていただくよう、これからも全職員で心がけていきたい。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしく過ごせるように、おしゃれや身だしなみには、気配りしている。更衣援助時は、本人の希望を取り入れ、自分で自由に選択していただくように配慮している。	○ 理容や美容については、本人の希望をお尋ねし、グループホーム近隣の理容院・美容院に行くよう支援している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜や折々の行事食を取り入れながら、目と舌で楽しく味わえる食事を提供している。利用者に合わせて、準備や片づけも手伝っていただいている。	○ 利用者の嗜好を大切にしながら、希望を多く取り入れ、無駄なく、おいしい食事作りに取り組んでいる。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者一人ひとりの嗜好を取り入れ、みんなが平等に楽しめるよう支援している。	○ おやつは、ほとんど手作りで、季節感を取り入れ、みんな楽しみにしている。タバコも喫煙場所を決め、楽しんでいただいている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	これからは、近隣の温泉(露天風呂)なども個別に連れて行って楽しんで頂ければと考えている。
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	今後も出来るだけ眠剤の服用をしないうですむように支援していく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	昔からの漬け物や梅干し、らっきよなど、自慢の腕でとても喜ばれるので、今後も続けて支援していきたい。
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	○	今までに、長崎ハウステンボス・佐賀の呼子(イカ)・くじゅう花公園などに日帰りで出かけ、大変喜ばれた。また、個別ケアとして、佐伯市大入島・九重の夢大吊り橋などにも出かけている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各居室に電話機を設置しているため、自由に家族や友人に電話を掛けられるようになっており、支援を行っている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の為の訪問時間は特に定めてはおらず、いつでも気軽に訪れていただくよう気配りしている。訪問された方を本人が思い出せない場合は職員がさりげなく思い出せるよう言葉かけ等で援助している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い身体拘束のしないケアに取り組んでいる。普段の生活の中で、職員間の連絡・調整を密にし、連携をとりながら、身体拘束防止に対する意識の確立に努めている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在、施設全体としての出入口ゲートは施錠している。鍵を掛けることの弊害は十分理解しているが、施設正面が交通量の多い道路に面しているため、安全確保のため常時閉めているのが現実である。しかし、インタホンにより、直ぐに開けることが可能であり、職員が出迎えたり、見送るなどで対応させていただいている。	○	居室は本人の希望を除き、鍵を掛けないようにしている。施設出入口のゲートについては、何か良い方法があれば工夫したいと考えているが、施設としてはまず生命の安全確保が何よりも優先すべき事と考え、玄関ゲートを開放することはできない。(以前、ちょっとした隙間から不審者の侵入もあった。)
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者のプライバシーに配慮しながら所在確認や様子の把握に努め、安全に留意している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品はきちんと保管しており、必要な時や使用する時に出して、終わったら直ぐに片づけて、危険防止の取組をしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを記録し、カンファレンスの時に話し合い、事故防止に対する共有認識を図っている。火災に関しては、防災訓練を行い、カンファレンスの時にシュミレーションを行い、未然に防ぐ取組を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時の対応マニュアルや応急処置マニュアルは整備しているが、実際の実地訓練は出来ていないため、現実遭遇したときに対応出来るかどうか不安である。一応、夜間帯の緊急時の対応として緊急連絡網は作成し、緊急時に備えている。	○	看護師を配置しているため、早い内にマニュアルを基に実地訓練を行い、いつでも、どの職員でも同じ対応が出来るように行っていきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回の防災訓練を行っている。この防災訓練には自治会の方の参加をお願いし、実施している。	○	防災訓練には今後もより多くの自治会、地域の方々に参加を呼びかけ、協力・連帯意識の高揚に努めていきたい。また、事業所として、災害時の避難場所として提供することを自治会の会長に伝えている。
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族の面会時に、その時その時の生活状況や身体・精神状況を報告し、または相談を行い、共有の認識の下で対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を把握しており、少しでも変化が見られたら、バイタルチェックを行い、必要であれば協力医・かかりつけ医に連絡をとり、相談のうえ、対応している。また、家族にも連絡し、家族の意向等も確認して支援している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が必ず責任を持って、服薬確認し、症状の変化の確認にも心がけている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材の工夫や適度な運動を働きかけ、自然排便を促すよう職員全員で取り組んでいる。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声かけを行い、見守ったり、介助を行っている。また、義歯の方には、毎日の義歯の洗浄を実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量は毎回チェック表に記録し、一人ひとり個別に把握している。また、食事のバランスについては、法人の管理栄養士に定期的にメニュー表を確認してもらい、アドバイスを受けている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症については、勉強会をもち、職員全員で予防対策に努めている。利用者はもちろんのこと、職員も体調に留意し、体調の変化や、不調の連絡、報告を速やかに行い、また、常に情報収集に努め、流行している感染症に対する早めの対応で感染予防を行っている。	○	毎年、インフルエンザの予防接種を利用者、職員全員行っている。また、外からの来園者には施設入口にて手指消毒を行っていただき、感染予防に対する注意書き等も掲示して注意を呼びかけている。インフルエンザの時期には加湿器を設置して予防に努めている。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の使用後はふきんやまな板、おぼんやテーブルなど必ずハイターを使い消毒して、清潔に努めている。また、食材も買いためしないように毎日買い物に行き、新鮮な食材を使用するよう気配りしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設の正面が交通量の多い道路に面しているため、安全面を考慮し玄関ゲートは常に閉めているが、インタホンで2階からでも訪問者の確認が出来、直ぐにゲートの開閉もボタンひとつで可能な状態になっている。お待たせしないよう常に心がけている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーの廊下やリビングの掲示板には季節の模様が一目で判るように季節折々の季節感あふれる写真や飾り付けを利用者と一緒に行っており、居心地良く過ごせるような工夫をしている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	パブリックスペースとして食堂兼リビングを自由に利用できるようにしており、ゲームをしたり工作や一緒に歌を唄ったり、利用者同士の交流が図れるような空間づくりを行っている。また、畳敷きの堀ごたつも用意されており、寒くなればこたつでの団らんが出来るようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周リや空間の活用</p> <p>建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度
		<input checked="" type="checkbox"/>	③たまに
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

○毎日の散歩、体操、歌など「継続は力なり」で、体を動かすことにより、排便もあり、歌を唄うことで発表の場（地区の老人会誕生会）も出来、そのことによって、地域との交流も広がっています。日頃より屋外に出ることが好きな方が多く、食べることも好きで、県外（長崎・佐賀等々）など遠方まで日帰り旅行やドライブで外食することもあり、今後も健康面や安全面を考慮しながら引き続き行っていきたいと考えています。その為にも利用者の家族の皆様やボランティアの方々にも協力をお願いしたいと思います。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム新別府一燈園
(ユニット名)	3階 なごみ
所在地 (県・市町村名)	別府市大字鶴見字新別府3051番地3
記入者名 (管理者)	相茶 寿美
記入日	平成 19年 10月 12日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を掲げ、職員全員で地域との交流の意義を理解し、取り組んでいる。	○	開設当時に作られた理念で、地域との関連する内容が掲げられていない為、作り替えていく必要があると思う。
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事務所内に大きく掲示し、業務に入る前に黙読し、業務に入るようにしている。毎日読み返す事で、日々のサービスの中でのふりかえりの意識付けと、次に活かすよう、折りに触れて指導している。		
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	フロアーに理念を掲示し、ご家族や来園者が誰でも見られるようにしている。特に利用者の家族には入所時や担当者会議の折り、説明を行い、理解していただいている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>				
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や毎日の買い物に出かけ、馴染みの関係を作っている。隣接する会社の駐車場を行事の時などに使わせてもらい、助けて頂いたり、校区の小学生との交流を行い、幅広く関係を持てるように取り組んでいる。		
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議などで自治会の情報などをいただき、地域や小学校の運動会などに参加し、交流を深めている。自治会の賛助会員となり、地域のつきあいに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実習生の受入やボランティアの受入を行い、活動が終わった後、入居者と集う時間を設け、認知症の理解を深めている。施設で体験されたことが、近隣で生活される高齢者への理解に繋がればと思っている。	○	地域の老人会との交流を進めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価ガイドブックを購入し、職員に読んでもらい、評価内容を学習している。昨年の評価結果から改善が必要な部分は問題提議し、取り組んできた。	○	外部評価の研修を設け、今年度は全員で取り組もうと考えていたが、提出までの期限が短くて、結局は断念した。次回に向け、ガイドブックを内部研修で取り組んでいく。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、施設内にて自治会・地域包括支援センター・利用者家族の代表に参加して頂き、運営推進会議を開催。事業所からの報告や参加メンバーより、意見や要望をいただくようにしている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議にも市の担当職員の出席をお願いしたが、現状では参加していただけていない。運営推進会議での内容を記録した報告書を提出するなどして、連携を取っている。また、別府市グループホーム連絡協議会(8事業所加盟)としても市との連携を取るように努めている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居者の中に成年後見制度や安心サポートを利用されている方がおり、身近に学ぶ機会を持っている。制度等については、外部研修等で得た資料を基に内部研修を行っている。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法については、職員は認識しているが、これまでに虐待行為の事例が無く、防止に向けての取り組みは行われていない。	○	早急にミーティングで虐待に関する理解を深めるよう勉強会を行う。また、虐待の危険性や発見したときの対応方法を確認し合って、注意を払い、防止に努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書の内容を十分に時間を掛けて説明を行い、家族の疑問等にも丁寧に対応している。契約締結後も、十分な理解が得られるよう心がけている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族からの苦情については、苦情受付簿に記録し、全職員に回覧。全員で改善に向けて取り組んでいる。また、アンケートを実施し、意見や希望を聞いてケアプランに取り入れている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、新聞を発行し、ユニットの取り組みを報告。また、金銭出納帳を毎月コピーし、利用料の請求・領収書等と一緒に郵送し、報告している。さらに、担当スタッフも家族に電話連絡したり、面会時に日常生活の様子などを報告している。	○	ご家族は毎日の生活状況を知りたいのではないかと考え、現在、ケース記録の内容を見直し、面会時に見ていただく取り組みをしている最中である。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置やアンケートを実施し、意見や希望等をいただいている。特に苦情に関しては、法人の苦情相談窓口へ提出し、第三者員にも報告し、意見を頂き、施設運営に反映させている。また、面会時や行事参加の折りにもご意見が頂けるよう積極的に声かけを行っている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者も同じ勤務シフトで仕事をしているため、運営状況を同じ目線で見られ、普段から職員の意見や提案を聴く機会を持っている。しかし、人事異動等は法人本部で決定する為、現場の意見は反映されにくい。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況、また、行事などにより、職員の確保は柔軟に対応している。緊急時などはグループホーム職員のみに関わらず、法人として、必要職員の確保など、調整に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人運営において、定期の異動は仕方ない為、入居者や家族に不安を与えないよう説明を十分に行い、しっかりと引継をしている。また、担当する職員を2人体制にし、1人が異動になっても残ったもう1人の担当職員がフォローするようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部の経営企画室が担当して新人研修・ステップアップ研修・フォローアップ研修など計画的に実施し、受講対象者が交替で研修を受講している。また、外部の研修にも積極的に参加し、ケース会議等で研修報告をして、レベルアップを図っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市の8つのグループホームで構成する別府市グループホーム連絡協議会に加入しており、定期的な会合や協議会が主催する研修会や事例検討会に出るだけ多くの職員が参加し交流すると共に、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	本部経営企画室の企画した職員のレクリエーションとして施設対抗ミニバレーボール大会に参加したり、慰労会を兼ねたお花見会や恒例の忘年会などを行い、ストレス解消に努めている。また、職員間では管理者・サブリーダーによる悩みの相談など工夫に心がけている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課として、年2回、個別の職能評価や次期の目標設定を行い、職員が向上心を持って働けるように取り組んでいる。また、資格取得に向け、法人独自で勉強会を実施し、資格取得後はその資格を活かした業務配置等を行い、働きやすい環境の構築に努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまでの相談は、担当のケアマネジャーが本人とゆっくり話をお聴きし、今のおかれている状況を理解するように努め、担当ケアマネジャーより入所についての相談や必要とあれば施設見学などで連携を取っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	担当のケアマネジャーが家族とも困っていること等をしっかり傾聴し、信頼関係を作りながら、家族の不安や介護負担の軽減に向けて支援に努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じたサービス機関の紹介や、地域包括支援センターへの紹介等を行っている。緊急性がある場合は、関係機関と連携・調整し、柔軟な対応を行うよう努め、生命の安全に留意している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人や家族に施設見学をしていただき、入居が決まれば、可能な限り職員がご自宅を訪問して、生活の状況を確認し、できるだけ自宅生活の延長の雰囲気となるよう努めている。また、入居後は家族の面会をお願いしたり、個別の対応を行い、不安の解消に努めている。	○	入居前に施設に慣れるよう、遊びに来ていただいたり、他の入居者と一緒に食事を食べて頂くなど、家族とも協力し、馴染みの関係を作って行きたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が自分の力を発揮できる場面作り(役割)を行い、自己満足(喜び)へとつなげている。感謝することで、他人に対するいたわりや喜びの感情が芽生え、お互いに助け合っているとの思いが強くなっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	半年に1回、家族を交えた担当者会議を行い、家族の意向をケアプランに反映している。家族の役割もプランに入れ、共に利用者の生活を支えていくように努めると共に、行事や家族会などにも積極的に家族に働きかけ、一緒に支え合う雰囲気作りを行っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事や食事会に家族の参加をお願いし、本人と家族がより良い関係が築かれるような場面作りに努めている。親族が後見人の方もおり、ミニ新聞や写真等をお送りし、近況を報告することで、良好な関係の継続がなされるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事の一環として、利用者のふるさと訪問や友人・親族の自宅を訪問したり、思い出の場所へ泊旅行等、利用者のニーズをお聴きしながら、取り組んでいる。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が調整役となって、利用者同士の関係が上手く行くように支援し、音楽や生活の中の家事を全員で取り組むなど、利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院などにより、やむを得ず退去される方は居宅サービスの相談員（ケアマネジャー）に引き継ぎ、継続的なフォローをしている。他の施設に移られた方には、他の利用者と一緒に面会に訪問したり、交流が続けられるように支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員2名がより深く関わる時間を設け、本人の思いや希望を把握し、ケアプランに取り入れている。希望や意向を明確に出来ない方には表情などから真意を推しはかたり、カンファレンス等で話し合っている。	○	本人の思いや言動はケース記録に入れており、今後は面会時に家族にも見ていただき、参考にさせていただくなかで、本人の思いや希望等を家族からの助言も交えて把握できるよう取り組んでいきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネジャーからの情報収集や入居前の自宅訪問、出来ない場合は家族や後見人の方に来園していただくなどして、出来るだけ詳細に把握できるよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	家族や本人からうかがったアセスメントを元に、利用者の言動や行動を記録し、職員全員で本人の全体像を把握するように努めている。	○	入居間がない方は、細かく情報を記録し、状態の把握に努めているが、記録が分散しているので、アセスメントシートの活用を検討していきたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思いや意向をしっかりアセスメントし、カンファレンスで職員が意見を出し合って、介護計画書を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の遂行状況を毎月モニタリングし、プランの見直しを行っている。期間中に状態が変化したり、問題が発生したときは、臨時のカンファレンスや家族にお願いし、担当者会議を開いて検討している。変更したプランは随時計画書の変更を行っている。	○	期間終了前に計画を見直し、家族に確認して頂いているが、期間中に変更したプランについては、未確認のままなので、今後は変更が生じた都度、家族に確認をしていただくようにする。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録はパソコンで管理し、一月分の個人記録を月初めにプリントして個別にファイルしている。日々の様子は申し送り簿にも記載し、伝達するように努めている。情報の共有の為、全職員に業務開始前に必ず申し送り簿を確認するよう義務付けている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院や買い物その他外出等の支援を行っている。また、家族や本人の希望に応じ、外泊の支援や施設での宿泊、一緒に食事をするなど、満足していただけるよう、随時柔軟な対応に心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が生き生きと生活が続けられるように地域の小学生やボランティアとの交流、専門学校等の実習生の受入等積極的に行っている。また、運営推進会議を活用して、自治会長にお願いし、火事や災害時の協力依頼や施設の消防訓練にも地区の防災担当の方に参加していただいている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	乗降介護事業を行っているタクシー会社と協力して、ヘルパー資格のある運転手をお願いし、外来リハビリに通っている。また、家族の状況に応じて、通院時の有料ヘルパー利用の支援も行っている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席するようになり、本人や家族からの相談や周辺の情報、アドバイスなどをいただき、生活支援に活用している。		
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には本人や家族の同意を得て、定期的に職員の同行も協力医に受診している。また、希望に応じて昔からのかかりつけ医に家族の同伴で受診している方、近隣に家族のいない方は主治医が往診をしていただいている方など出来るだけ希望に添うように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在は症状も安定している為、定期的な往診は中止しているが、いつでも再開できる専門医と協力関係を築いている。また、通常利用している協力医も内科であるが、認知症を理解し、受診や相談の結果、必要に応じ他の医療機関の紹介なども快くお願いできている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職を配置し、24時間体制で健康管理や緊急時の対応を行っている。また、必要時には同施設内(1階)のデイサービス看護職に相談や助言、対応をお願いし、協力をいただいている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は職員も同行、情報提供し、混乱のダメージを最小限に抑えるよう配慮している。1ヶ月を越える入院となると施設を退去することとなるため、看護師による病院訪問や快復状況の確認を行いながら、主治医とも退院計画の相談を行うなど連携を取っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時や利用者が重度化していく段階で、協力医・かかりつけ医からの助言等も参考にしながら、事業所の方針を伝え、また家族の希望等の確認を行っている。当法人は老健や特養などの施設もあり、その他関係機関への移動(入所)の申請なども支援している。	○	終末期に対するターミナルケアの検討はまだ実施されておらず、今後は運営者・職員間で話し合い、事業所としての方針や出来る最大のケアなど、全員で施設の方針を共有できるよう意思統一を行う。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期の対応は現状の体制では困難と思われるため、取り組んでいない。	○	早急に終末期の対応についての検討会を実施し、当施設としての終末期の方針を取り決めておく必要がある。そして、家族や本人の意向を確認し、施設の方針をきちんと説明し、合意をいただくよう取り組んでいく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい施設等に移動する際は、これまでの生活が継続出来るように、きめ細かな情報提供を行ったり、馴染みの職員が訪問し、精神的ダメージが最小限になるよう連携を取っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	施設全体で職員のマナー委員会を設け、利用者に対する言葉遣いや態度の指導・教育、啓発を行っている。職員間も同様にマナーに注意しあい、言葉遣いやプライバシーの保護、また、個人情報の取り扱いに気配りしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせた声かけを行ったり、複数の選択肢を提示し、本人の意向を確認しながら支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な業務流れはあるが、入居者の体調やニーズに合わせ、生活の支援を行っている。夜の消灯時間など、生活習慣に合わせた柔軟な対応を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えは本人の意向で決めており、職員は洋服を出して、好みの服を選んでいただくよう援助している。化粧や整容についても、物品の準備や声かけをするが行うのは本人に任せている。自分で出来ない方には介助している。パーマやヘアカラーなども本人の希望で支援を行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事に出来るだけ利用者が関わられるよう調理や盛り付け、後かたづけを職員と一緒にしている。食事は職員も同じテーブルで一緒にものを食べ、和やかに楽しく食事ができるよう配慮している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物に出た際に利用者の嗜好品を購入してもらい、誤嚥の心配のない利用者には居室で楽しんでいただいている。お酒も本人の希望で夕食時に出したりしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中は出来るだけ布の安心パンツに尿取りパットを付け、誘導を行い、夜間は安眠できるように紙パンツにパットを併用するようにしている。個々の排泄パターンにそった誘導や支援を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お一人ずつ個々人のペースで入浴を楽しんでいただいている。入浴を拒否される方には、他部署の職員から声かけをしてもらったり、日中に入浴して頂けない時は夜間入浴も行つて、気持ちよく入浴できるよう配慮している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個別の生活リズムに合わせて就寝しており、テレビや本を読んだり、趣味活動をしなが、ゆっくりと過ごせるように支援している。休息も同様で、体調やその日の行動に合わせ、居室でゆっくり休んでいただくようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味活動への取組や音楽療法を毎日行い、入居者の皆さんが知っている歌を中心に楽しんでいただいている。家事も個々人の能力に合わせてお願いしており、達成感や満足感が得られるよう、感謝の言葉を伝えている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金(お小遣い)を個人管理してもらい、買い物に同行した時に、小遣いの中から嗜好品を購入し、自分で精算する場面を作っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩や食材の買い物、ドライブ等の機会を作り、戸外に出て気分転換やストレスの解消に努めている。また、個人のニーズで外食や演劇鑑賞等の支援も行い、楽しんでいただいている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	職員の勤務の調整を行い、個別レクリエーションの時間を作っている。個々人のニーズで1泊旅行や友人宅の訪問など家族とも話し合って実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(◎印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話を設置しており、いつでも家族や友人と電話でゆっくり話せるように支援している。また、友人からの手紙には、職員が声かけを行い、電話を掛けるなどして、関係が途絶えないよう配慮している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者がゆっくりと話ができるように居室に湯茶を準備します。面会時間は基本的には21時までと決めています。家族の事情や入居者の就寝リズムに合わせて面会をお願いしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体が身体拘束とその弊害について認識し、向精神薬や眠剤からの離脱に向けて取り組んで来た。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の3階にあり、利用者が外出しそうな様子を見せたら、職員が一緒について行ったり、1階にデイサービスがあるので、デイの職員とも連携し、安全に配慮しているが、建物全体としての玄関ゲートは真正面が交通量の多い道路に面している為、危険防止の目的で通常はゲートを閉めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は食事作りをしながら、リビング担当の職員とフロア担当の職員が利用者の様子を観察しており、夜間はエレベーターは止め、階段横の事務室(職員ルーム)で2時間毎に巡視し、物音がすると訪室し、安全確認を行っている。また、22時以降は階段使用時に警報が鳴るようセットしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日中については、食堂やフロア担当職員が利用者の状況に合わせて管理し、夜間は事務室内に引き上げたり、洗濯用品については、乾燥室内に仕舞い、鍵を掛けて管理している。ハイターや消毒液などは棚に仕舞い、利用者の目に触れない所で日中も保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハットを記録し、ケース会議で再発防止の話し合いを行っている。事故発生時には速やかに事故報告書を作成し、今後の予防対策を検討すると共に、家族や運営者に報告をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルや緊急時の対処方の勉強会等を行っているが、実施訓練が出来ていないので不安がある。	○	定期的な訓練を行い、対処方を全職員が習得できるよう取り組んでいく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	最低年2回、利用者と共に避難訓練を行い、地域の方にも参加をお願いしている。また、運営推進会議でも避難訓練状況の報告を行い、地域の方々の協力をお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者一人ひとりに起こり得るリスクを予想し、職員間で確認している。また、家族には状況を見ていただき、対応策を具体的に説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルチェックを行い、異常がある方は経過観察を行っている。常に顔色や様子の変化に注意をはらい、異常時には再度バイタルチェックを行い、必要であれば協力医に連絡や受診をすると共に、職員間で情報を共有するよう速やかに伝達と管理者等への報告を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の個人ファイルに病名や薬の内容、処方箋をファイルし、全職員が把握するように努めている。臨時薬や定期処方が変わったときは連絡ノートに記載し、様子観察、状態変化の確認に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜や乳製品を主体としたメニューや散歩や家事活動などで体を動かす機会を設け、便秘予防に取り組んでいる。	○	下剤の使用は日常的で、特に異常がない限り見直しがされていない。今後は主治医と相談しながら、自然排便の取り組みを行っていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性を職員が認識しており、毎食後歯磨きや義歯の洗浄の声かけを行い、一人ひとりの力に応じてケアを行っている。自歯の方が3名おり、普段より歯の大切さを利用者と折りにふれ話している。義歯の方は週2回洗浄を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(◎印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量のチェックを行い、記録し、大まかな摂取量を把握している。嗜好調査を行い、食べられない物は別メニューで出したり、利用者の嚥下や咀嚼力に応じて、粥やきざみにして出している。また、月に1回、法人内の管理栄養士にメニュー表を見てもらい、アドバイスをもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防のマニュアルを作り、全職員で予防対策に努めている。普段より、外からの訪問者には、手指消毒をしていたり、消毒器の設置と、利用者にも手洗いの声かけや食事前にはおしぼりによる手拭きと手指消毒を行っている。	○	利用者や家族の同意を得て、また、職員も含めて毎年インフルエンザの予防接種を行っている。流行の時期前には加湿器も設置し、予防に努めている。その他、ペーパータオルを使用するなど感染症予防に取り組んでいる。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきんは毎晩漂白洗浄し、冷蔵庫内も定期的に掃除し、消毒液で拭いている。食材の残りは鮮度を確認し、冷凍したり、日付を書いて早く使用するようにしている。毎日買い物に出かけるので、買いためせず、新鮮な食材を使って調理するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	1階がデイサービスとなっており、玄関は共用となっている。施設全体の出入口ゲートは常時施錠しているが、インターフォンでグループホームからでもいつでも開閉ができるようにしている。広く明るい玄関でデイ利用者の作品等を展示したり、庭には芝生の緑が鮮やかで、清涼感漂う造りになっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに入ると調理を作る職員の姿や香り、音など生活感を感じる造りになっている。また、リビングの一部は畳敷きになっており、掘ごたつが設置され、冬場にはコタツで囲らぬ姿も見られる。廊下やリビングの壁かざりは季節毎に利用者と一緒に造り、季節感を出す演出をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下に椅子やソファを置き、仲の良い利用者がくつろげるスペースを作り、観葉植物等を置いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が居室でゆっくりと過ごせるように、自宅で使い慣れたソファやテーブル、家具類を自由に入れていただき、家族の写真や思い出の品などを飾り、個々の個性に合わせた部屋作りを家族と一緒にやっている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室温調整はこまめに、利用者の様子を見ながら適宜行っている。ユニットが3階にあるため、風の通りが良く、出来るだけフローアールや居室の窓を開け、自然の風を取り入れている。トイレには換気扇や消臭剤を使い、悪臭がでない工夫をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせ、ベットの位置や家具の配置を見直し、安全への配慮を行っている。毎日着替える下着などは取りやすい段に変更したり、タンスに名札を貼り、入っている物が判るように提示するなどの工夫をしている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者が混乱や失敗が生じたとき、職員間で話し合い、解決策を出し合って対応している。何度もフィードバックしながら、本人の力が出せるよう追求している。		
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	利用者と一緒に菜園で畑仕事を行ったり、3階なので、ベランダに出ると見晴らしが良く、安全に注意しながら、椅子を出して外気浴を楽しんでいる。		



V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①音楽療法や学習療法に取り組んでいます。難聴が強く、普段、発語の殆どなかった方が皆と一緒に唄い、楽しんだり、又、新しい入居者が音楽を通し、仲間になることができ、今は毎日夕食後、30分程度、童謡や懐メロを歌い、お茶を飲んで、お菓子をつまんでが日課です。
- ②学習療法は職員3名が学習療法士の認定を受け、認知症の改善を目指し、これからもさらに取り組んで行こうと思っています。
- ③職員全員で利用者の生活リハビリの見直しを行い、個々人の力を伸ばしていく取り組みを行っていきます。